

# Yamakado News Letter



## 今月の保全作業、コース整備、その他色々



作業前の湿原観察 7/3



斜面で軽々と作業をする竹端さん



破損した炭焼き小屋の解体 7/3



解体した部材の撤去 7/3



楽舎フェンス周辺の除草 7/17



吸水柵の砂除去 7/17

7月の会員保全作業日は3日と17日に行いました。階段資材運搬やスズメバチトラップの回収、階段直し、進入路の刈り払い、沢道木橋の滑り止め対策などのコース整備の他、雪で倒壊した炭焼き小屋の解体撤去、ササユリ蒴果マーキング、古くなった獣害防止テープ剥がし、楽舎周辺の草刈りや大雨による砂流入で埋まった吸水柵の砂掃除などを行いました。

また、3日の作業前には北部湿原のネット内の湿地の様子を観察しました。丁度この時期はハッコウトンボがたくさん羽化し、カキランやコタヌキモの花などが観察できます。しかし、実際に湿原の中に入り、こうした湿地の様子を観察した会員は殆どいません。普段保全作業をしているこの森の、中心にある湿地はどんな様子で、どんな生き物がいるのか。実際に見た上で保全作業に関わってもらう方が良いのではないかとの考えから観察会を行いました。初めて湿地に入った会員の皆さんは色々と思うことがあったようです。こうした体験を共有した中で、今後のこの森について色々議論を深めていければと考えています。

## 地元や県内各地から、小学生が来訪

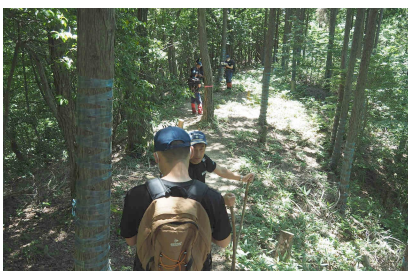
7月25日、びわ湖放送の事業で「海と日本プロジェクト」が開催。県内各地の小学5年生20名が来訪しました。琵琶湖淀川水系の源流の一つ、山門水源の森で自然観察をしながら、海やびわ湖とのつながりや森の役割を学ぶという企画。本会会員がガイドしました。

7月29日は地元永原小学校の児童4名が夏休みの自由研究に保護者と来訪。テーマは「きのこしらべ」「水の初めから終わり」「ヒツジ草の花の開花について」「シカやイノシシの好きな植物」でした。これも

本会会員が研究の支援をしました。

## 長浜消防署伊香分署による救助調査

新型コロナの影響で、密を避ける余暇ということで初心者の手軽な山歩きが増え、それに伴う事故や遭難が増えているそうです。そんな中、19、20日の二日にわたり、伊香消防によるこの森での救助調査が行われ、本会会員が現地案内をしました。コースの各点で無線や携帯の感度、ヘリの救助ポイント、コースの起伏や路面の状況などを調査、記録されていました。



消防署による救助調査 7/19、20

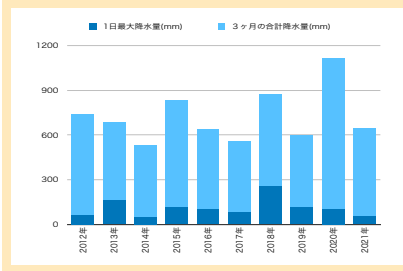


びわ湖放送事業「海と日本プロジェクト」開催 Photo by Fujimoto H

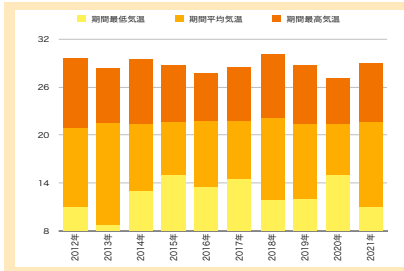


永原小夏休み自由研究相談会

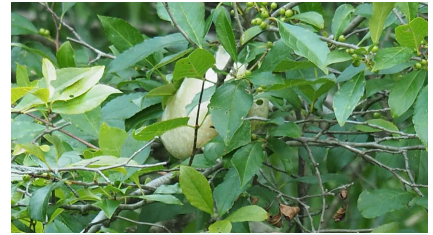
# モリアオガエルの産卵と気象条件



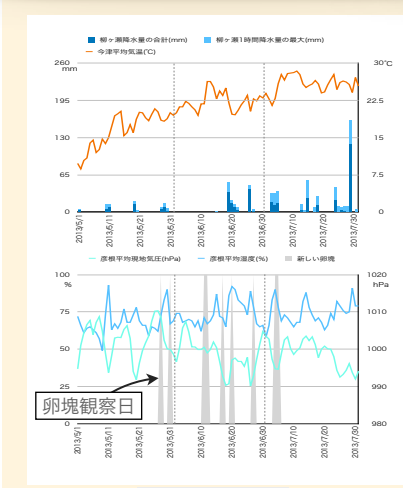
各年5～7月の柳ヶ瀬の降水量



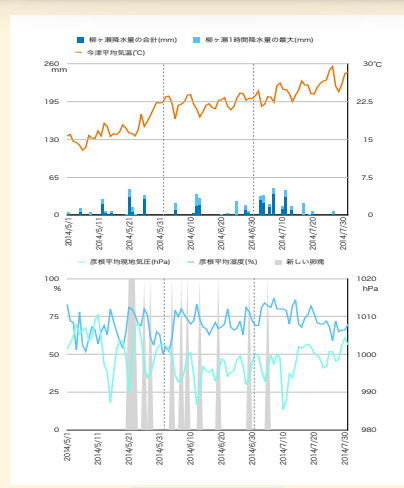
各年5～7月の今津の1日平均気温の統計



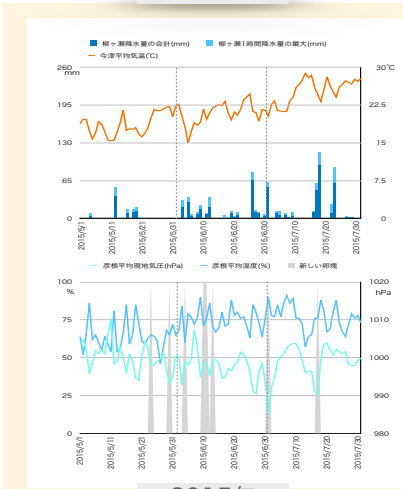
前々日の雨で出来たと思われる卵塊  
北部湿原人工池 2021/07/30



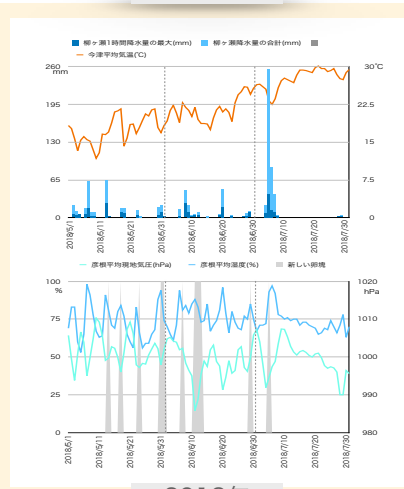
2013年



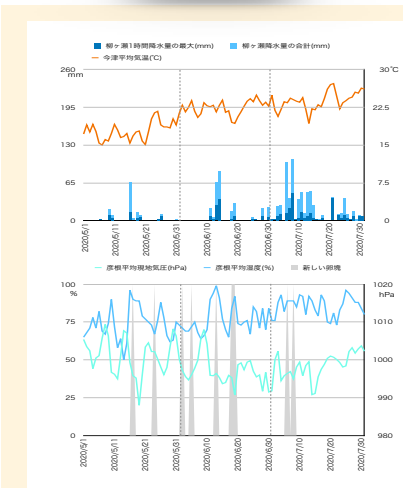
2014年



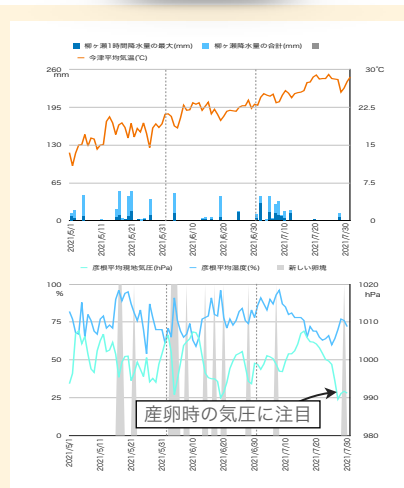
2015年



2018年



2020年



2021年

今年の6月は雨が少なく、モリアオガエルの卵多くは卵塊の中で干からびてしまいました。モリアオガエルなりに、考えての産卵だとは思いますが、自然はいつも彼らに寄り添うとは限りません。幸い7月前半は雨がよく降り、孵化までこぎつけた卵塊を多く観察できました。驚いたのは7月30日にも卵塊を発見したことです。前々日の雨に合わせて産卵したようですが、例年にない遅い時期の産卵です。

と言っても、本当に過去にこの時期の産卵はないのか。そもそも、いつ頃からいつ頃まで産卵し、またどのような気象条件に影響を受けるのか。過去10年間の写真記録と気象庁の雨量、気温、気圧、湿度のデータを見比べて、何か見えてこないか考えてみました。

各年のグラフを見ると産卵と雨との関連はありそうです。更に卵塊の観察日だけを抽出してグラフ化すると、特徴的な傾向が見られました。月が進むにつれて当然気温は上昇傾向ですが、気圧は逆に下降する傾向です。暑くなるにつれ気圧が下がらないと産卵スイッチが入らないのでしょうか。皆さんはどう考えます？

